

デジタルカメラを購入したのが2002年・・・それまでは応援に行っても写真を残せなかった。さらにコンパクトカメラでは競技場写真には向かない。
デジカメとはいえ、ちゃんとしたスポーツ写真をとらなくては!・・・と2004年、2005年とデジタルハイエンドカメラを買ったが、やはりスピード感がついていけない。
・・・そんな時、大塚さんのニコンD3を借りて、「ああ、やっぱデジタル一眼レフじゃないとなあ・・・」 そんな中「一眼レフ世代」のオファーを受けて、世はキャノン、ニコンがブーム再燃。価格も下がり、一躍「デジタル一眼レフ」の時代となった。
私も手馴れたキャノンを買って、20年ぶりに一眼レフ撮影を再始動した。
写真で春高の近年を振り返ってみたい。

創部90周年 企画 デジタルデータでの春高の活躍をプレイバック 1

まずはネガ時代の思い出から・・・

1996年 山梨小瀬インターハイ

熊谷太郎ら49回を応援に、かつてのマイルのエース・鳥海と共に向かった。

「山梨は関東といえるのか?」・・・というくらい遠かった。

我々は図々しく宿舍までお邪魔したが、寛大な高野監督は多忙な中、歓迎して下さった。
この大会で、為末選手が驚異的な記録をマークした。
池田久美子選手も一年生で幅跳びに出場。
観覧席で観戦していたが、NHKに写った。
・・・ちょっと うれしかった。



2000年岐阜 長良川インターハイ

安田、斉藤のポールと、徳永の400m、霜越の混成を応援した。

斉藤達哉の春高記録の瞬間を見られた。

4m90cmを一度でクリアしたのに6位というレベルの高い試合であった。

延々4時間に及ぶ観戦は、自分が熱中症になりそうなくらい辛かった。

後藤均OB会長も応援に来てくださった。

さすがに多くの役員が、後藤さんに挨拶に来ていた。

やっぱすごいなあ・・・



1996年山梨インターハイ組の49回が頑張って支援してくれた。

ちなみに棒高の予選の日、スタンドにいる姿がまたNHKで放送された。

.....再びうれしかった。

2003年 東部新人

まだコンパクトデジカメの時代だが、ズームをうまく使って撮影を試みた。

奥岡の400mHがいきなりの好記録！伊藤もメンバーに加わった新チームはマイルで好走。来期への確かな手ごたえを感じた試合であった。また大木先輩が三段跳びを指導に来て下さった。嵯峨根さん、太郎、塩川、森丘らマイラーもかけつけてくれた。

奥岡は400mHのインターバルに慣れていないのか脚があわないシーンも。しかし、それでもその実力を大きく見せつけ、周囲をうならせた。







筆 撮 のもと齒科